

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県伊是名島

増産プロジェクトにおける令和5年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の達成状況等

1 令和5年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H28年産実績	63	61	242	365	7,434	5,014	5,929	6,036	4,665	3,044	14,334	22,043
H29年産実績	71	68	248	388	5,579	4,938	5,120	5,172	3,977	3,380	12,715	20,072
H30年産実績	41	68	292	400	6,371	4,999	5,467	5,480	2,588	3,382	15,972	21,942
R元年産実績	36	38	304	378	5,113	3,348	4,885	4,754	1,832	1,261	14,858	17,950
R2年産実績	56	59	267	382	7,170	4,761	5,432	5,582	4,011	2,830	14,492	21,333
R3年産実績	45	82	289	416	6,493	5,488	6,169	6,069	2,908	4,527	17,802	25,237
R4年度実績	34	49	307	390	6,438	5,078	5,625	5,627	2,170	2,488	17,279	21,937
R5年増産計画	100	45	215	360	8,190	4,622	6,340	6,639	8,190	2,080	13,630	23,900
R5年増産実績	42	41	292	375	5,361	4,211	1,714	4,840	2,266	1,714	14,147	18,127
(対計画比%)	(42.3)	(90.4)	(135.6)	(104.0)	(65.5)	(91.1)	(27.0)	(72.9)	(27.7)	(82.4)	(103.8)	(75.8)
(対前年比%)	(124.3)	(83.1)	(95.0)	(96.0)	(83.3)	(82.9)	(30.5)	(86.0)	(104.4)	(68.9)	(81.9)	(82.6)

2 その他指標の動向 令和4年産→令和5年産

・株出栽培の割合78.7%→77.8%

・さとうきび作農家戸数215戸→202戸

・平均糖度13.3度→15.3度

増産目標に対する位置づけ	令和5年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった <table><tr><td></td><td>収穫面積</td><td>単収</td><td>生産量</td></tr><tr><td>(計画)</td><td>360ha</td><td>6,639kg/10a</td><td>23,900t</td></tr><tr><td>(実績)</td><td>375ha</td><td>4,840kg/10a</td><td>18,127t</td></tr></table> 令和5年度の増産目標は収穫面積360ha、単収6.6t/10a、生産量23,900tを計画していたが、夏場の大型台風等の影響により、今期の生産量は18,126t、単収4.8t/10aの実績となり、目標達成には至らなかった。 令和6年度の増産目標も23,900tと設定し、病虫害の防除、適期肥培管理及びかん水を促すことで目標達成に向けた取組を実施する。		収穫面積	単収	生産量	(計画)	360ha	6,639kg/10a	23,900t	(実績)	375ha	4,840kg/10a	18,127t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	360ha	6,639kg/10a	23,900t										
(実績)	375ha	4,840kg/10a	18,127t										
課題	① 担い手不足を解消するため、認定農業者、新規就農者及び受委託組織等の育成、増加を図る必要がある ② 収穫機械や植付機械の増加に伴い、オペレーターの技術向上・人材確保が必要である ③ 適期植付や肥培管理の徹底について指導していく必要がある												
令和5年産における取組方針	主なさとうきび生産振興策として ① 担い手及び新規就農者の育成支援を継続して推進していく ② 農業生産法人の連携を促し、受委託作業の体制構築による農作業の合理化・機械化体制の構築を図る ③ 適期肥培管理の指導及び株出管理作業の体制強化を図る												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
①効率的な さとうきび経営 の育成と労働 力の確保	【実施した取組】 ・病害虫対策において、共同防除の実施により農家の作業効率化と軽減化を図った ・農家の作業効率化及び負担軽減を図るため、共同植付を実施した	・担い手及び新規就農者の育成支援を継続して推進していく ・農業生産法人の連携を促し、受委託作業の体制構築による農作業の合理化・機械化体制の構築を図る																																																						
	【目標の達成状況】 <table><tr><th></th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr><tr><td>認定農業者</td><td>18</td><td>13</td><td>2</td><td>4</td><td>11</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>農業法人</td><td>6</td><td>6</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr></table>			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	認定農業者	18	13	2	4	11	12	12	12	農業法人	6	6	7	7	7	7	7	7																											
			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																																														
	認定農業者		18	13	2	4	11	12	12	12																																														
農業法人	6	6	7	7	7	7	7	7																																																
【課題】 ・担い手不足を解消するため、認定農業者、新規就農者及び受委託組織等の育成、増加を図る必要がある ・認定農業者や生産法人等の経営基盤強化を図るため関係機関が継続して支援を行う必要がある																																																								
②農業共済制 度への加入促 進	【実施した取組】 ・関係機関による農業共済制度への加入促進の呼びかけを行った	・共済制度への理解を得るため、農業共済組合と連携し、説明会や地域懇談会を開催することで引受拡大を図る ・生産組合・伊是名村・JAで連携し、生産者圃場植付調査（OCR調査）時に、加入促進を促す																																																						
	【目標の達成状況】 <table><tr><th></th><th>H28 (29年産)</th><th>H29 (30年産)</th><th>H30 (R元年産)</th><th>R元 (R2年産)</th><th>R2 (R3年産)</th><th>R3 (R4年産)</th><th>R4 (R5年産)</th><th>R5 (R6年産)</th></tr><tr><td>加入戸数 (戸)</td><td>152</td><td>134</td><td>114</td><td>101</td><td>95</td><td>91</td><td>77</td><td>72</td></tr><tr><td>戸数引受率 (%)</td><td>69.1</td><td>60.9</td><td>52.3</td><td>49.0</td><td>44.2</td><td>46.0</td><td>35.8</td><td>35.0</td></tr><tr><td>引受面積 (ha)</td><td>247</td><td>230</td><td>170</td><td>154</td><td>150</td><td>149</td><td>134</td><td>112</td></tr><tr><td>面積引受率 (%)</td><td>63.7</td><td>57.5</td><td>44.9</td><td>40.2</td><td>36.0</td><td>41.6</td><td>32.3</td><td>29.4</td></tr><tr><td>共済金額 (千円)</td><td>168,932</td><td>179,598</td><td>143,303</td><td>139,125</td><td>139,311</td><td>116,120</td><td>-</td><td>-</td></tr></table>			H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	加入戸数 (戸)	152	134	114	101	95	91	77	72	戸数引受率 (%)	69.1	60.9	52.3	49.0	44.2	46.0	35.8	35.0	引受面積 (ha)	247	230	170	154	150	149	134	112	面積引受率 (%)	63.7	57.5	44.9	40.2	36.0	41.6	32.3	29.4	共済金額 (千円)	168,932	179,598	143,303	139,125	139,311	116,120	-	-
			H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)																																														
	加入戸数 (戸)		152	134	114	101	95	91	77	72																																														
戸数引受率 (%)	69.1	60.9	52.3	49.0	44.2	46.0	35.8	35.0																																																
引受面積 (ha)	247	230	170	154	150	149	134	112																																																
面積引受率 (%)	63.7	57.5	44.9	40.2	36.0	41.6	32.3	29.4																																																
共済金額 (千円)	168,932	179,598	143,303	139,125	139,311	116,120	-	-																																																
注) R4、R5 年産の数値については概算値																																																								
【課題】 ・近年、気象災害や病害虫被害が減少傾向にあるため、農業共済加入の意識が低下している ・高齢者農家を中心に農業共済加入への意識が低い																																																								

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																				
①気象災害に強い生産基盤の整備	【実施した取組】 ・かんがい排水施設の修繕に努めた他、干ばつ時期のかん水啓発に努めた ・台風被害対策として、防風林・防潮林の整備促進に努めた	・土地改良区等と連携してかん水の重要性を啓発し、農業用タンク等の普及やかん水方法の検討、利用率向上に努める ・防風・防潮林の啓発活動に努める																																				
	【目標の達成状況】 (単位: %)																																					
	<table><tr><td></td><td>H28 実績</td><td>H29 実績</td><td>H30 実績</td><td>R元 実績</td><td>R2 実績</td><td>R3 実績</td><td>R4 実績</td><td>R5 見込</td></tr><tr><td>ほ場整備率</td><td>99.2</td><td>99.2</td><td>99.2</td><td>99.2</td><td>99.2</td><td>99.2</td><td>99.5</td><td>99.5</td></tr><tr><td>水源整備率</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>畑地かんがい整備率</td><td>90.9</td><td>90.9</td><td>90.9</td><td>90.9</td><td>90.9</td><td>90.9</td><td>90.9</td><td>90.9</td></tr></table>			H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	ほ場整備率	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.5	99.5	水源整備率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	畑地かんがい整備率	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9
			H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込																												
	ほ場整備率		99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.5	99.5																												
水源整備率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																														
畑地かんがい整備率	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9																														
【課題】 ・かんがい排水施設の維持並びに干ばつ時期や生育旺盛期のかん水作業の必要性について農家へ周知する必要がある ・ほ場整備地区内の植栽を含めた防風林・防潮林の推進並びに農家に対して効果及び必要性を周知する必要がある																																						

②機械化一貫 体系の確立	【実施した取組】 ・ビレットプランタの実演会を実施し、機械植付の効果検証を行った ・受託組織に共同植付を委託し、プランタ所有法人を中心に植付作業の効率化を図った	・農業機械士養成研修を島内で実施し、オペレータの技術工場・育成に努める ・関係機関と連携し、機械化一貫体系の確立に努め、労働力不足の解消につなげる																																		
	【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%) <table><tr><th></th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr><tr><td>ハーベスタ 稼働台数</td><td>20</td><td>22</td><td>22</td><td>24</td><td>24</td><td>23</td><td>23</td><td>22</td></tr><tr><td>ハーベスタ 収穫面積</td><td>293</td><td>324</td><td>327</td><td>324</td><td>314</td><td>338</td><td>351</td><td>333</td></tr><tr><td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td><td>80.2</td><td>83.6</td><td>81.8</td><td>85.7</td><td>82.2</td><td>81.2</td><td>84.2</td><td>89.0</td></tr></table> 【課題】 ・収穫機械の増加に伴いオペレータの技術向上・育成を図る必要がある ・農作業の安全確保に向けた講習会等を行う必要がある ・高齢化に伴う労働力不足を解決していく必要がある			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	ハーベスタ 稼働台数	20	22	22	24	24	23	23	22	ハーベスタ 収穫面積	293	324	327	324	314	338	351	333	ハーベスタ 収穫率(面積)	80.2	83.6	81.8	85.7	82.2	81.2
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																												
ハーベスタ 稼働台数	20	22	22	24	24	23	23	22																												
ハーベスタ 収穫面積	293	324	327	324	314	338	351	333																												
ハーベスタ 収穫率(面積)	80.2	83.6	81.8	85.7	82.2	81.2	84.2	89.0																												
③地力の増進	【実施した取組】 ・堆肥センターから、堆肥を供給し散布に努めた ・伊是名村土づくり支援事業において島外から2,000tの堆肥導入を行った 【課題】 ・緑肥作物栽培による土づくりが普及していない ・堆肥の供給先を島外に頼っているため、村内の耕畜連携を目指して堆肥必要量の確保並びに生産する必要がある ・高齢化に伴う、施肥管理不足が懸念される	・緩効性肥料の利用促進に努める ・緑肥作物の栽培や有機物を投入した土づくりを推進する																																		

(3) 技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																																																	
①病害虫対策	【実施した取組】 ・病害虫一斉共同防除を実施した ・植付時、培土時の粒剤の推進を行った ・病害虫防除の指導・助言を行った 【課題】 ・早期共同防除の実施を行うための体制構築が必要である ・被害発生後に病害虫対策を行う農家が散見されるので早期病害虫対策の必要性を啓発する必要がある	・講習会等を開催し、病害虫防除の啓発に努める																																																																																	
②優良品種の 選択・普及	【実施した取組】 ・種苗管理センターからの無病健全苗の導入と原種ほ設置による優良品種の普及に努めた ・採苗ほから農家へ共同植付を実施した ・原種ほ及び採苗ほの設置を実施した 【目標の達成状況】 (単位: %) <table><tr><td></td><td>H28 (実績)</td><td>H29 (実績)</td><td>H30 (実績)</td><td>R元 (実績)</td><td>R2 (実績)</td><td>R3 (実績)</td><td>R4 (実績)</td><td>R5 (実績)</td></tr><tr><td>農林15号</td><td>0.3</td><td>0.3</td><td>0.3</td><td>3.2</td><td>3.4</td><td>3.6</td><td>2.8</td><td>1.6</td></tr><tr><td>農林17号</td><td>3.6</td><td>5.2</td><td>5.5</td><td>4.0</td><td>3.4</td><td>2.9</td><td>3.1</td><td>3.2</td></tr><tr><td>農林20号</td><td>15.9</td><td>11.1</td><td>7.8</td><td>6.6</td><td>5.8</td><td>4.6</td><td>3.3</td><td>3.2</td></tr><tr><td>農林22号</td><td>11.8</td><td>10.1</td><td>7.0</td><td>5.5</td><td>6.5</td><td>7.9</td><td>8.2</td><td>8.0</td></tr><tr><td>農林25号</td><td>35.6</td><td>29.9</td><td>22.0</td><td>15.3</td><td>11.3</td><td>9.6</td><td>9.5</td><td>7.2</td></tr><tr><td>農林26号</td><td>2.2</td><td>0.8</td><td>0.3</td><td>0.3</td><td>0.3</td><td>0.2</td><td>0.3</td><td>0.3</td></tr><tr><td>農林27号</td><td>10.1</td><td>12.1</td><td>16.3</td><td>20.4</td><td>22.3</td><td>20.4</td><td>21.3</td><td>17.3</td></tr><tr><td>農林28号</td><td>6.3</td><td>9.8</td><td>12.0</td><td>12.7</td><td>11.8</td><td>10.6</td><td>9.5</td><td>6.7</td></tr></table> 【課題】 ・災害に強い安定多収品種の導入、普及が必要		H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	農林15号	0.3	0.3	0.3	3.2	3.4	3.6	2.8	1.6	農林17号	3.6	5.2	5.5	4.0	3.4	2.9	3.1	3.2	農林20号	15.9	11.1	7.8	6.6	5.8	4.6	3.3	3.2	農林22号	11.8	10.1	7.0	5.5	6.5	7.9	8.2	8.0	農林25号	35.6	29.9	22.0	15.3	11.3	9.6	9.5	7.2	農林26号	2.2	0.8	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	農林27号	10.1	12.1	16.3	20.4	22.3	20.4	21.3	17.3	農林28号	6.3	9.8	12.0	12.7	11.8	10.6	9.5	6.7	・災害に強い安定多品種及び機械収穫にあった品種の選定を行う
	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)																																																																											
農林15号	0.3	0.3	0.3	3.2	3.4	3.6	2.8	1.6																																																																											
農林17号	3.6	5.2	5.5	4.0	3.4	2.9	3.1	3.2																																																																											
農林20号	15.9	11.1	7.8	6.6	5.8	4.6	3.3	3.2																																																																											
農林22号	11.8	10.1	7.0	5.5	6.5	7.9	8.2	8.0																																																																											
農林25号	35.6	29.9	22.0	15.3	11.3	9.6	9.5	7.2																																																																											
農林26号	2.2	0.8	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3																																																																											
農林27号	10.1	12.1	16.3	20.4	22.3	20.4	21.3	17.3																																																																											
農林28号	6.3	9.8	12.0	12.7	11.8	10.6	9.5	6.7																																																																											
③栽培技術の 普及等	【実施した取組】 ・病害虫防除などの基本的栽培技術を指導した ・点滴かんがいやスプリンクラーの貸出により干ばつ対策を行った 【課題】 ・株出管理作業の指導・体制整備が必要である ・適期植付や肥培管理作業の徹底について指導していく必要がある	・適期肥培管理の指導及び株出管理作業の体制強化を図る ・栽培技術講習会を開催し、栽培技術の効率化、普及に努める																																																																																	